ホシチャバネセセリ　*Aeromachus inachus* (Ménétriès)

【選定理由】

本種は、本州と対馬に産し、いずれの産地においても局所的である。愛知県では、1954 年 8 月 13 日に豊田市（旧稲武町）黒田で 3 頭が初めて採集された。以来、三河の山間地に少数の産地が知られており、1977 年 8 月 10 日に豊田市（旧旭町）伊熊でオオアブラススキから卵と幼虫が発見された（葛谷, 1978）。近年 20 年以上にわたり観察例がない。愛知県の近隣地方でも激減が報じられており、これは全国的な傾向である。

【形　態】

日本産のセセリチョウ科でもっとも小型。翅表は暗褐色で、前翅に小白点が弧状に並ぶ。後翅の表面は無紋、裏面は特有な斑紋をもつことなどの特徴から、近似種とは一見して区別することができる。

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県では、豊田市（旧稲武町、旧旭町）が知られるに過ぎない。なお、岐阜県美濃地方では、美濃加茂市、中津川市、恵那郡岩村町から、また愛知県北設楽郡に接する長野県下伊那郡では、売木村、根羽村から少数の記録がある。

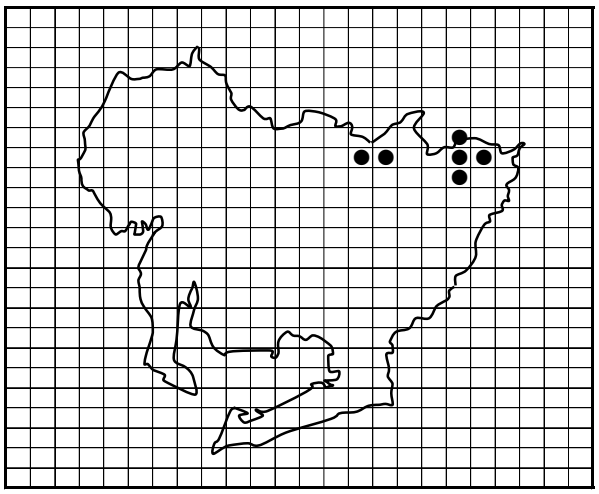
【国内の分布】

本州では、青森県から山口県にわたって産地が知られる。東北地方の中央部、近畿地方には大きな分布空白地がある。九州では対馬のみに産する。北海道、四国、佐渡島からは知られない。

【世界の分布】

国外では、朝鮮半島、中国、台湾など東アジアに分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

成虫は、なだらかな丘陵や山地の草原や林縁を敏捷に飛び、低木や草の葉上に止まり、後翅を水平に、前翅を半開きにして日光浴をする。ウツボグサやヒメジョオンの花を訪れることが多く、時に湿った地面で吸水することもある。曇天の日は活動がみられない。旧旭町ではカシワの疎林の下草上によく見られ、7 月上旬と 8 月上旬に採集例があることから、年 2 回の発生と思われる。

幼虫はオオアブラススキ（イネ科）が主な食草である。その葉裏にとまり、葉表を表面にするように筒状の巣を作る習性があり、その巣の特徴から幼虫が発見できる。

【現在の生息状況／減少の要因】

旧旭町では 1981 年 8 月 30 日に 1♂が採集されて以来、比較的よく調査されているにもかかわらず記録がない。生息地のカシワ林の伐採、宅地や耕地化、林間の小道の舗装、林縁の草地の減少などが原因かと思われる。

【保全上の留意点】

本種は、特異な分布と生活様式をもつ。食草はオオアブラススキ以外に記録がほとんどないが、オオアブラススキの衰退や減少の報告はない。このため、減少の直接原因を確定することも、その保全対策を具体的に明確化することも困難である。少なくとも、疎林的環境を守り、下草刈りの方法や、農薬散布を慎重に行うことが望まれる。

【特記事項】

豊根村三沢として引用された 1978 年 5 月 14 日の記録は、チャマダラセセリの誤りである。

長野県木曽郡大桑村のぞきど高原には 1980 年代まで採集例が多かった。1990 年頃から減少が目立つようになったが、2006 年 7 月 30 日に 1♂が採集された。

【引用文献】

葛谷 健, 1978. 愛知県東加茂郡旭町のツマグロヒョウモンとホシチャバネセセリ. 佳香蝶, 30 (114): 24.

【関連文献】

高橋 昭・葛谷 健. 1956, 中部東海地方産蝶類目録第 3 報. 佳香蝶, 8 (29/30): 1-123.

（2009 年版を一部修正）